

平成23年10月 教育委員会定例会会議録

1 開会の日時

平成23年10月28日（水） 午前9時30分

2 出席委員

森 武 洋	委員長
三 塚 勉	委員
齋 藤 道 子	委員
三 浦 溥太郎	委員
永 妻 和 子	委員（教育長）

3 出席説明員

教育総務部長	原 田 惠 次
教育総務部総務課長	大 川 佳 久
教育総務部教育政策担当課長	野 間 俊 行
教育総務部教職員課長	高 橋 淳 一
教育総務部学校管理課長	丸 茂 勉
学校教育部長	中 山 俊 史
学校教育部教育指導課長	渡 辺 文
学校教育部支援教育課長	小田部 英 仁
学校教育部学校保健課長	藤 井 孝 生
学校教育部スポーツ課長	伊 藤 学
中央図書館長	小 貫 朗 子
博物館運営課長	稲 森 但
教育研究所長	新 倉 邦 子

4 傍聴人 0名

5 議題及び議事の概要

○ 委員長 開会を宣言

○ 委員長 本日の会議録署名人に三浦委員を指名した。

○ 教育長報告

前回の定例会から本日までの報告事項

(永妻教育長)

それでは平成 23 年 9 月 29 日から本日までの主な所管事項についてご報告いたします。

はじめに、市立久里浜中学校の武道場建設に伴う発掘調査についてです。

本発掘調査は夏季休業中の 8 月 8 日から開始していますが、中世の生活跡を中心に調査を進めていく中で、9 月 16 日に、泥岩（でいがん）を組み合わせた構造物と人骨の一部が発見されました。詳しく調査した結果、「古墳時代の石棺墓と埋葬人骨」で神奈川県内でも類例のない発見であることがわかりました。

10 月 8 日土曜日に遺跡見学会を開催し、市民をはじめ 580 名が参加され、皆さん、驚かれながらもとても熱心に見学されていました。

その後、調査を進めたところ、頭部を含め全身の骨格が残っている人骨がもう一体発見されました。石棺には納められていませんが、これも大きな発見でありますので、10 月 29 日土曜日に第 2 回目の見学会を開催することといたしました。

2 体の人骨を現地で専門家に見ていただいた限りでは、石棺墓の人骨は成人男性で身長 157～158 cm、もう一体の人骨は成人女性ですが、歯の摩耗が少なく若い方で、身長は 140 cm 弱ということです。今後、詳しく分析などの必要な調査を進めてまいります。

続きまして、学校給食の放射線量の測定についてです。

学校給食の放射線量の測定方法につきましては、すでにご案内のとおり、月 1 回の事前の食材サンプリング検査と、調理後の提供食 1 週間分をまとめて行う検査と 2 種類の方法で実施しています。この給食を丸ごと検査する方法を継続的に行うということは、全国自治体でも例のない取り組みで、保護者はもとより、他の自治体などからも注視されているところですので、慎重に対応しているところです。

給食食材の事前サンプリング調査につきましては、10 月 14 日に実施いたしました。10 月後半から 11 月にかけて使用する食材の中から、ほうれんそう、ダイコン、サツマイモの 3 品目を検査したところ、すべて不検出という結果でした。

また、提供食の検査につきましては、10 月 13 日から 21 日までの 7 日間に実際に提供した給食をまとめてミキサーにかけて検査するという方法で、10 月 23

日実施し、こちらにも不検出という結果でした。

続きまして、学校における放射線量測定結果と今後の対応についてです。

10月25日、市立鶴久保小学校において側溝清掃土から比較的高めな放射線量が検出されました。

昨日、除染を行いました。方法は、土砂の処分先等が決まるまでの間、高線量を示した土砂を土嚢袋に入れ、さらに2重のビニール袋に入れて、敷地内で防災シートに包んで50cmの覆土をするように埋設いたしました。

今後の方針ですが、今回の事例を踏まえ、市立学校全校の側溝や屋上排水口のほか、腐葉土、目視により水のたまりやすい所などの調査を11月中に終了するように行う予定です。測定の結果、 $0.59\mu\text{Sv/h}$ を超える数値が検出された場合は同様の除染を行います。

なお、これらの結果につきましては、報道機関へのお知らせとともに、本市のホームページ上でも公表しています。

私からの報告は以上です。

(三浦委員)

測定した場所はどちらでしょうか。

(学校管理課長)

測定した数値が出たのは地表1cm位の接するところです。上部1mも測定しましたが、 $0.11\mu\text{Sv/h}$ でした。

(森武委員長)

今後、公表されるということですので、1mの数値と地表の数値ですとか、分かりやすいかたちで公表していただければと思います。

委員長 報告事項を聴取することを宣言

報告事項(1)『平成24年度横須賀市立横須賀総合高等学校に入学する生徒の募集人員について』

(教育指導課長)

「平成24年度横須賀市立横須賀総合高等学校に入学する生徒の募集人員について」、ご報告いたします。

平成24年度の募集人員はお手元にごございます資料の通りです。

なお、募集人員については、県立高等学校を設置する神奈川県、市立高等学校を設置する、横浜市、川崎市もそれぞれの教育委員会に「平成 24 年度県立及び市立高等学校に入学する生徒の募集人員について」、付議することになっております。

従いまして、公式発表は、神奈川県、横浜市、川崎市と本市の教育委員会終了後に予定されている、「平成 24 年度公立高等学校入学定員について」の記者発表において行われます。本年度の記者発表の日程は、10 月 31 日（月）となっておりますことを、ご承知おきくださいますよう、お願いいたします。

以上で、平成 24 年度横須賀市立横須賀総合高等学校に入学する生徒の募集人員についての報告を終わります。

(三塚委員)

三浦半島の公立高校の定員について、昨年度に比して増減がありましたか。

(教育指導課長)

津久井浜高校が 1 クラス増えるということで、40 名増えることとなります。

## 報告事項（2）『市立ろう学校全国大会の結果報告について』

(スポーツ課長)

本日はスポーツ課から 5 件の報告をさせていただきます。まず初めに、「市立ろう学校全国大会結果報告について」であります。

本年度は、9 月 30 日から 10 月 2 日まで、岡山県岡山市で開催されました全国聾学校陸上競技大会に、ろう学校から資料に記載の 4 名が出場いたしました。

結果については、資料にお示ししてあるとおり、島津善直さんが男子一部 5,000m において見事優勝され、一部男子 1,500m においても第 3 位に入賞されました。

佐藤麻里乃さんにおかれては、一部女子砲丸投げで第 4 位、一部女子やり投げで第 5 位に入賞されました。

鈴木雅也さんは、一部男子走り高跳びで準優勝、一部男子 200m では第 5 位に入賞されております。

さらに、新村敦也さんが、一部男子 5,000m で 12 位に入っております。

これらの活躍がありまして、今年は、学校対抗の部でも一部男子において見事第 6 位に入賞をされ表彰を受けました。少ない人数ながら、日々の練習を積み重ねての総合部門での入賞は、大変素晴らしい快挙であると考えております。

「市立ろう学校の全国大会結果報告について」は、以上でございます。

(三塚委員)

学校では、どのような方が陸上の指導をされているのでしょうか。

(スポーツ課長)

教員の中に、自身も聴覚障害者で棒高跳びの経験のあるものがおり、この教員を中心に複数の顧問で毎日熱心に指導をしていただいております。

報告事項（３）『市民体育大会記念式典の開催結果について』

(スポーツ課長)

続きまして、10月8日（土）に横須賀総合高等学校SEAホールで開催いたしました市民体育大会記念式典の開催結果について、ご報告させていただきます。

この式典は、市民体育大会の総合開会式と本年度の横須賀市体育功労者の表彰式を兼ねて行い、また記念講演を併せて開催しているものでございます。当日ご参加をいただいた方の人数は、資料に記載のとおり約260名でありました。

市民体育大会は、広く市民の皆さまにスポーツを普及・振興し、健康増進を図り、明るく活力ある生活づくりに寄与することを目的に開催しており、今年は35種目にわたり約3万人の方が参加してくださる大会で、今回で84回目となります。

横須賀市体育功労者表彰については、永年にわたり本市体育の普及振興のため各種スポーツの奨励及び普及に貢献し、並びに地域体育振興活動に顕著な功績を挙げられた体育功労者14名が市長と教育長から表彰を受けられました。

表彰式終了後には、ロスアンゼルスオリンピックやソウルオリンピックで活躍をされましたフェンシング競技の友寄 美江子氏による特別講演会を開催し、盛会のうちに終了することができました。

「市民体育大会記念式典の開催結果について」は、以上でございます。

報告事項（４）『スポーツフェスタ2011の開催結果について』

(スポーツ課長)

10月10日（月・体育の日）に不入斗運動公園ほか市内各会場で開催いたしま

したスポーツフェスタ 2011 について報告させていただきます。

この行事は、多くの市民の皆さまに手軽なスポーツを通して体を動かすことの喜びやみんなで汗をかく心地よさを味わっていただき、活力・健康増進につながっていただく他、家族のふれあいの場、コミュニティーでのスポーツ活動の場としての機会を創設することを目的に開催し、今年で7回目となります。

トランポリンやアーチェリー、ビームライフル、ボクシングなど普段あまり経験できないスポーツの体験コーナーやホームタウンチームである横浜F・マリノスのコーチによるサッカー教室、また、水泳教室、新体力テスト、大型ヨット体験クルーズなどを企画しましたところ、親子連れを中心に、今年の約4,000人を大幅に上回る約5,000名の方にご来場いただきました。

開催にあたりましては、主管団体としてご協力いただきました横須賀市スポーツ指導者協議会、横須賀市体育指導委員協議会、横須賀市レクリエーション協会を始め多くの皆さまのご協力をいただきましたことを併せてご報告させていただきます。誠にありがとうございました。

「スポーツフェスタ 2011 の開催結果について」は、以上でございます。

(齋藤委員)

参加人数が昨年度よりも1,000人も増えたということで大変結構だと思えますが、種目は例年同じなのか増えているのか、増えているとすれば、市民からの要望を募る等されているのか、市で決めていらっしゃるのか、お訊きしたい。

(スポーツ課長)

種目については、同じ種目を長く続けることにも意義あると考えております。あの場所に行けば、この種目ができるということで認知度を高めながら参加者を増やすことは大事かと考えます。また、反面新しい種目を加えるということも必要だと考えておりますので、バランスよく配慮したつもりでございます。ちなみに、本年度新たに加えた種目は、弓道演武の見学です。不入斗弓道場の近くでイベントを行っているので、横須賀市弓道協会が協力してくださいました。

市民の要望については、例年トランポリンが大変人気がありまして、メインアリーナが一杯になってしまう状況があります。そこで、今年は、昨年までメインアリーナで行っていたキックターゲットとサッカー教室を横須賀スタジアムに移して屋外で開催したことにより、メインアリーナの人の流れがスムーズになりました。

来年度につきましても、このような工夫を加えながら開催してまいりたいと考えております。

(森武委員)

25%程参加者が増えていますがどのような理由を想定されていらっしゃるでしょうか。

(スポーツ課長)

1つは、天候の要因が大きいかと考えております。本年度は、前後も含めまして好天に恵まれましたので、市民の皆さまに参加していただきやすい条件が整ったのではないかと考えております。ここ数年は、約4,000名で推移しておりますが、昨年度は前日の日曜日が雨でありまして、この時期は、各学区で健民運動会を開催しているケースが多く、翌日の体育の日が予備日であったため、4,000名にとどまっていたのが、今年は前日から天候に恵まれたため、参加者が大幅に増えたのではないかと考えております。

#### 報告事項(5)『第43回横須賀市小学校児童陸上記録大会の結果について』

(スポーツ課長)

「第43回横須賀市小学校児童陸上記録大会の結果について」、ご報告をさせていただきます。

本大会は市内の全ての公立小学校47校から5・6年生約1,000名の参加のもと、10月15日(土)に不入斗公園陸上競技場で開催いたしました。

当日は朝からの曇天で、天候判断にも苦慮いたしましたが、あいにく途中から時折雨が降る中ではありましたが、選手は精一杯全力を出し切り、予定どおりに大会を終了いたしました。

詰め掛けた多くの保護者やご来賓の皆さまからもたくさんの応援をいただき、大盛況の大会となりました。

上位の記録については資料にお示ししたとおりでございます。なお、参加した児童全員に記録証を配付いたしました。

「第43回小学校児童陸上記録大会の結果について」は、以上でございます。

(森武委員長)

各学校から参加される選手はどのようにして選ばれているのでしょうか。

(スポーツ課長)

どうしても参加人数を制限しなければ開催できない大会でございますが、各学校では、校内での代表者を定めるための予選会と言いますか、代表を決める

選考会を開催していただいています、多くの学校でこのようなかたちをとられています。

(森武委員長)

昨今、子どもたちの体力が低下していると言われる現状にあって、各校が全校体制で取り組み、こうした記録会に出るのだという雰囲気が高まって結果的に小学生の体力向上につながるとよいと思いますので、今後もよろしくお願ひします。

(スポーツ課長)

来年度以降の開催にあたっては、今いただいたご意見を参考にしながら大会を運営してまいります。

#### 報告事項(6)『横須賀市中学校駅伝競走大会の結果について』

(スポーツ課長)

それでは、横須賀市中学校駅伝競走大会の報告をさせていただきます。

横須賀市中学校駅伝競走大会は、横須賀市中学校総合体育大会の締めくくりの大会として開催しており、今回で男子は62回目、女子は28回目となります。

また、県立観音崎公園内コースから国道16号線馬堀海岸区間コースに移してから、今年で4年目になります。

大会は予定どおり10月22日(土)に、市内の全公立中学校23校に横須賀学院中学校を加えまして、男女各24校の参加で行いました。

初めに女子の部を、次に男子の部を行いました。419名の選手をはじめ約5,500名の来会者が沿道を埋め尽くし、各学校名を書いた幟旗も多数並んで大変な盛り上がりの中、浦賀警察署や地元町内会等のご協力をいただきながら大会を開催することができました。

結果につきましては、6位までに入賞した学校を記載しておりますが、ご覧のとおりでございます。

また、男女各上位3校については、11月5日(土)に横浜八景島海の公園周回コースで開催されます神奈川県中学校駅伝競走大会にも出場いたします。

更に県大会での優勝チームは、12月に山口県で開催されます全国大会の、上位5校は関東大会への出場権を得ることになります。

なお、関東大会については、輪番により今年は地元神奈川県開催となっており、12月4日(日)に県大会と同じ横浜八景島海の公園周回コースで開催される



こととなっております。

「中学校駅伝競走大会の結果について」は、以上でございます。

(理事者報告なし)

(委員質問)

(永妻委員)

今年本格導入しました校務支援システムについて、前期が終了しましたので、後期、次年度以降の運用に向けてお伺いしたいと思います。特に前期は通知表の作成にあたって何回か負荷テストを行い、学校にご負担いただくこともありました。初年度ということで、想定内のことも含め様々な混乱等もあったと思いますので、学校から届いている意見、またどのような対応を考えているか、ご報告いただければと思います。

(学校教育部長)

教職員の多忙化解消を大きな狙いとして校務支援システムを導入し、結果的には、1回テストを実施して本番の前期の通知表の作成へということで考えておりましたが、3回テストを実施しなければならない状況になり、学校の先生方には、システム全体への信頼感も含めてご心配、労力をおかけしました。従来の自校のシステムと校務支援システムの両方で準備をされた学校もあると聞いておりますので、大変申し訳なかったと思っています。本番の入力、印刷では大きな混乱はありませんでしたが、紙質が従来のものより少し薄くなり、こちらからのアナウンスを工夫していかなければならないと考えています。

A3両面だけでは学校の想いが伝わらないという学校では、ファイル形式やさらにもう1枚紙を挟みこむという対応をしていた学校もございます。そのような中、先日の報道発表させていただきましたが、逆にミスが出てしまったということは大きな課題であると感じております。今後、点検方法も含めて工夫していく必要があると考えております。

今回、初年度ということで各学校からいただいたご質問をできるだけ共有できるようにQ&Aを公開して他校でも活かしていただけるような体制を途中からとらせていただきましたが、各学校で工夫されたことを全校で共有していけるようにしたいということと、併せて、システムに必要な改善があれば今後でもできるところは改善してまいりたいと考えております。

(教育研究所長)

各学校の様子について 10 月 21 日を締め切りに全校でアンケートをとっております。内容は、使用方法、プリンタ、仕様（大きさ等）、紙、自由記述です。使用方法については、8 割くらいはシステムで入力しておりますが、2 割くらいは手書きの学校がございます。プリンタは支障はありませんでした。仕様は、小学校で A 3 両面が 26 校と 1 番多いです。中学校は A 4 片面、A 3 片面がそれぞれ 8 校と 1 番多いです。使用した紙は推奨ということではお伝えしませんでした。金玉紙という厚紙が小学校で 30 校と 1 番多いのですが、自校で判断をして薄い紙を使用されたという学校もございます。自由記述は分析途中ですが、印刷作業について、システム使用の効果、作業の進め方、その他ということで、170~180 の意見が出ております。各学校共通で理解したほうがよいものは発信し、研修をしたり、間違っただけで捉えられているものについては修正したアナウンスをしたりという検証作業を進めております。

効果ということでは、中学校では、従来のものに慣れているのであまりご意見はありませんでしたが、転勤した時には皆さんがシステムを使えるので有効だというプラスのご意見が出ております。小学校では、印刷業者に出していたものが自校でできるということや、学校体制に関わる意見も出ております。例えば、評価担当や教頭先生が音頭をとって小刻みに研修をした学校があったり、今まではそれぞれが作成したものを管理職に見せていたが、初年度ということと間違いないよう学年内で読み合わせて精度を上げたりなど、プラスの意見がありました。

しかし、プラスのご意見は少なく、大変だったという声が多くありますので、訪問研修やアナウンスなど、前期の通信簿を踏まえて実施していきたいと思っております。

(永妻委員)

処理上、改善して欲しい部分はいくつか挙がってきております。事務処理上のミス、個人情報の漏れなどはあってはならないことなので、作成にあたっての緊張感、心構えの徹底、余裕を持った作成手順を教育委員会でも研究していかなければいけないと思っておりますし、まだまだ大変だという思いが多いということは、きちんと定着していない部分や改善すべき点があると思っておりますので、そこを受け止めて、改善に向けてお願いしたいと思います。業者については、こちらの要望については対応していただけるようになっているのでしょうか。

(教育研究所長)

多少、修正する予算を組んでおりますので、成績機能は教育指導課との連携も必要ですが機能的なミスで間違えたという点はカスタマイズで対応してまいります。しかし、従来の通信簿でもあったようなミスは、カスタマイズと切り離して考えていただいて、校内でどうするか、学校にも考えていただきたいと思っています。メール機能なども、年度内で、後期の成績では対応できるように考えております。

それから、付け加えてよろしいでしょうか。実際、70校のものを校内から様式を挙げていただきましたが、小学校は47校で416ものファイルがありました。1校に1つではなく、例えば単学級6学年ですと6通りでよいはずなのですが、さらに学年別で分かれていたりして、中学校では23校で71のファイルがありました。導入で全ての学校の様式を取り入れるということでスタートしたのですが、蓋を開けてみたら487のファイルがあるということで、教育課程の編成は学校に権限があるとはいえ、かなりの様式があるとわかりました。今後、どのように検討することが学校にとってよいのか、教育研究所は研修も抱えておりますので、毎年100人規模の新規採用が入ってくることも考えると今の状態が果たしてどうなのか検討の時期にきていると考えます。

(永妻委員)

書式の問題、様々な事務処理など、初年度ということで色々な問題がでてきていることをプラスに捉えて、教育委員会としても学校にも理解を求めながら改善に向けて取り組んでいかなければいけないと思いますのでよろしく願います。

(三塚委員)

通知表の用紙が薄い学校もあり、子どもが鞆に入れたらぐしゃぐしゃになってしまうような状況もあると思います。学校によってはファイルに入れて、そのファイルも6年間使うように保護者に伝えていたりして、学校によってまちまちで、ある程度用紙を統一できるとよいと思います。

次に、通知表の中に観点別評価に加えて評定を入れる取り組みが小学校であったと思いますが、前期は評定は入れない、後期は入れるとか、今年度は入れられないなど、学校によって様々だったと思います。指導する側としてどのような指導をされているのか。学校任せなのか、来年度は全校評定を入れるのかなど、そのあたりをお訊きしたい。それから、3段階の評定をする時、県の基準でやられていると思うのですが、3が非常に少ないという学校があった。3、2、1を観点別評価から評定にもっていく時に、学校のばらつきを教育委員会

ではどのように指導しているのか。児童数が 500、600 人を超える学校は、校長先生が前期の終りに全員分チェックをするというのは並大抵ではないと思います。大変な思いをして通知表を渡さなければならない。その学校での管理体制をどうするのかというと、従来であれば担任がつけて、校長、教頭が点検していると思いますが、ある学校では、まず学年で点検をするようにと指示された学校もありましたが、終わった後の感想を聞くと、やって良かったということだったそうです。自分の入力あたりから点検して、所見まで数人の先生で点検したのがよかったそうです。今までは他の先生がどのような所見を書いているか見たことがないため、自分自身も勉強になったところがあったと。管理職が点検する前に、先生方が 1 回点検しておけば校長、教頭もある程度安心してチェック機能が果たせるのではないかと、ミスが減らせるのではないかと思います。また、総括教諭がどのようにリーダーシップを発揮しているのかお訊きたい。

(教育指導課長)

どこまで学校が通知表を元に保護者に伝えていくかというところは学校の判断というところではあると思います。ただ、指導要録に評定を入れていくという部分で、指導要録でこちら側がもっている情報を、これまで評定の部分が保護者に伝わっていなかったと思うのですが、評価は子ども或いは保護者に伝えて、それを元に一人一人が次はどうしていくかということ捉えてもらう通知表でなくてはならないと思いますので、教育委員会として、こういう部分をぜひ入れていただきたいということは伝えていく必要があると思っていますので、評定の部分についてもぜひ入れていただきたいと伝えていくつもりであります。

最終的に評定をつける際の 3 の多少については、県が、県全体のかたちを決めていきたいということで作成中なので、それを元にお伝えしていきたいと考えています。観点別評価をきちんと見ていくことで、学校によって基準が異なるようにしていきたいと考えております。互いにチェックをしていくということで、より正確になっていくのはもちろん、所見など勉強にもつながると思いますので、学年でとか、総括教諭が見てとか、チェック機能をきちんとしていくと同時にその良さもお伝えしていきたいと思います。

(教育研究所長)

通信簿のファイルについてはなかなか統一とはならないかもしれませんが、私も数校のものを見てかなり差があると感じました。保護者が見た時に、内容が伝わるものもあれば、言葉が適切ではないかもしれませんが、見るからにペラペラの用紙もありまして、校務支援を使うにあたってのモデルをお示しする

ことが学校にとってはよいのかなと思います。私も学校におりましたが通信簿を近隣の学校と見合うということはなかったと思いますので、小学校には部会などもありますので、そのようなところで情報交換ができればよいなとも思います。

(森武委員長)

様式について、薄くなったというのは、プリンタの制限で厚紙が使えなくなったということでしょうか。

(教育研究所長)

分析の途中ではありますが、理由は2つ考えられ、教育研究所では金玉紙を使えますとアナウンスをし、テストもし、プリンタもお示しして大丈夫とお伝えしたのですが、やはり不安で薄い用紙にした学校もありました。また、学校の独自の判断で薄紙にしたところもございます。このままですとよくない状態なので、厚紙の推奨版でプリントアウトが確実にできるというアナウンスをしていきたいと思います。

(森武委員長)

487のファイルということでしたが、今後、更新や変更などをしていく際、誰の責任でどのように改修していくのでしょうか。

(教育研究所長)

スタートは5月2日に教育研究所に様式を送っていただいて、それを業者に出してカスタマイズした経緯があります。微調整は指導主事もできるようになっておりまして、その権限を学校にお渡しして、各学校でできるという方法もあると考えております。ただ、その場合、セキュリティの問題や権限がどこまで担保されるか実証済みではありませんので、そこは慎重に、どこまで学校に再度お願いするのか、教育研究所はどこまでやるのかということは今後の課題ではありますが、現段階で全て教育研究所でやるのはあまり効率的ではないと思いますので、通信簿をどうするかという教育指導課との連携もありますが、学校自体もどうしていくかということを考える時期にきていると思います。

(森武委員長)

負荷テストのこともかなり細かくお伺いしましたが、学校がシステムに慣れていないという以前に、システムが仕様を満たしていないという気さえするのですが、経費をかけてカスタマイズすべきところと、本来要求したところが対

応していなかったという部分もあるかと思うのですが、そのあたりは今後どのように整理し、処理していかれるのでしょうか。

(教育研究所長)

あまりフルな状態ではないと考えております。作業ももう少し簡単だと思っていたのですが、できる先生でもかなり困難を極めるような内容でした。しかし、校務支援システムを今後使っていくということですので、カスタマイズは今年度、来年度とも考えております。ただ、全ての先生の要求についてカスタマイズすることは考えていません。校務支援システムの良さもありますので、ある一定のところではかたちを決めて学校の先生方に慣れていただく部分もあるかと思えます。何のために校務支援システムを導入したか、もう一度その目的を皆さんに確認をして、業務の効率化、その時間は子どもと向き合う時間であるように、教育委員会としても予算など頑張りますが学校にもご理解をいただきたいと思っています。

(森武委員長)

今回、システムのお話を伺って、評価や通知表の話はシステムとは関係ない話で、もちろん両方良い方向に変えていかなければいけないのですが、システムを確実なものにするという話と、本来あるべき通知表にするという話を同時に議論すると却って混乱するところもあるかと思うので、導入したほうがよいところは導入していただいて、ある程度分けて議論すべきところは分けていただいて、学校も教育委員会も確実に良いものを作っていこうというスタンスだと思いますので、そのあたりは適切にご検討いただければと思います。

(学校教育部長)

委員長お話しのとおりと思っています。まずは多忙化解消ということで入れたシステムですので、1回目ということもありましたが、2回目以降、解消に繋がっていくのかということを中心に考えて進めていかなければいけないかと思っています。そもそも仕様を満たしていないという部分については業者と詰めていかなければいけない問題で、現時点でも成績処理をするために1つ機能を外している部分がありますので、今後十分に交渉していかなければいけないと思います。

(三塚委員)

教師塾について、受講生の感想を聞いていると大変好評のようですが、受講生の出席率や成果などが分かれば教えていただきたい。

(教育研究所長)

今日の夜もありますが、皆さん一生懸命参加されています。希望塾は31名参加されていますが出席率は82%です。未来塾は36名参加をしていて82%の出席率で、大変好評を得ていると把握しております。

6 閉会及び散会の時刻

平成23年10月28日(金) 午前10時29分

横須賀市教育委員会

委員長 森 武 洋